

★留学生便り (34) ★

サンクト・ペテルブルグへの留学を通じて

松川 緋奈乃

こんにちは。現在サンクトペテルブルク国立大学に留学中の大学二年生の者です。今年の二月にこちらに来て、十二月まで滞在する予定です。まだこちらに来て五ヶ月弱ですが留学の様子、サンクトペテルブルクの素晴らしさについて少し書かせて頂きたいと思います。

2月に到着したばかりの時は、寒さと言葉が通じないもどかしさから日本が恋しくなる事もしばしばありましたが、今ではロシアでの生活にもロシア語にも慣れ芸術の街サンクトペテルブルクをととても楽しんでます。私の通うサンクトペテルブルク国立大学のロシア語センターは、ネヴァ川の沿岸に位置し、毎日ネヴァ川とその対岸に位置するイサアク聖堂を横目に登校しています。二月のネヴァ川はまだ人が歩いて渡れるほど凍っていたので、徐々にネヴァ川の氷が溶けそれと同時に街も活気づいていく様子を見る事ができ、良い時期に来る事ができたなど感じています。またサンクトペテルブルクの名所であるエルミターージュ美術館まではネヴァ川を渡る橋を隔てて徒歩二十分ほどで行く事が出来、また学生は無料で入る事が出来るので午前で授業が終わる時等は放課後に行くという贅沢なこともしています。その他の美術館、博物館等も学生証を提示すれば普通に比べてとても安い値段で入る事が出来るので、さすが芸術の街だなと日々実感しています。

私はもともと音楽等に少し興味があったのでサンクトペテルブルクに留学する事を決めました。実際のサンクトペテルブルクは想像よりも過ごしやすく、サンクトペテルブルクに留学する事を決めて良かったと感じています。街にはたくさんのカナル(小さい川)や公園、また美しい小道が多いのでこちらに来てからは散歩が日課になりました。もちろん芸術としての名所も多く、さらに自然も多いサンクトペテルブルクはととても居心地が良く半年後には帰らなければならないということに今から寂しささえ覚えます。またサンクトペテルブルクを象徴する大きな一つの要素である「白夜」が始まりました。六月下旬の現在、23時には日が沈み

3時半には日が昇ります。これだけ日が長いのはとても新鮮で楽しく、つい夜遅くまで行動して翌朝寝坊してしまうということが冬に比べて増えて来てしまったので気を引き締めなければと最近感じています。サンクトペテルブルク市民も同じく暗い冬が終わった喜びからかとてもこの長い夜を楽しんでいて、道で催し物が頻繁に行われるようになっていたり、またマリンスキー劇場等では「白夜祭」が始まったり等、冬の暗い雰囲気から一変して街も人々もとても楽しそうです。これからさらに日が延びていき、また色々な催し物が行われるそうなので私も今からとても楽しみです。

肝心の勉強に関しては以前に比べて大分ロシア語が分かるようになり、毎日ロシア語を使うのが楽しいです。最初の3ヶ月はロシア人のロシア語を聞き取るのはとても難しく悔しい思いをする事もありました。3ヶ月を過ぎたあたりからロシア語がととても聞き取れるようになり、相手の言っていることはゆっくりであればほとんど分かるようになってきました。ですがまだ喋るということに関してはスムーズにいかずロシア人や同じクラスのアジア人の友人達に文法を直される事もしばしばあります。また大学の同じクラスの友人には、私がロシア語歴では勝っていてもロシア語能力では負けているという人も多く、彼らのお陰でロシア語をもっと頑張ろうという気持ちになるのもとても良い環境に身を置くことができたと感じています。

私が想像していたよりもサンクトペテルブルクはととても素敵な街で、さらに友人達にも恵まれとても充実した留学生活を送る事が出来ています。この留学日記(?)を書かせて頂きながら改めて既に五ヶ月弱が過ぎてしまったことを実感し時間のすぎる早さにとても驚いています。きっと残りの半年も本当にあっという間に過ぎてしまうと思うので全力で充実した半年にしたいと思います。